

(社)北海道臨床工学技士会ニュース

NO. 73

ホームページ <http://hcea.umin.ac.jp>事務局 hacet-office@umin.ac.jp

発行人：真下 泰

〒004-8618

札幌市厚別区厚別中央2条6丁目

札幌社会保険総合病院 ME部

TEL 011-893-3000

FAX 011-893-4001

心電図セミナー開催のご案内

「誰にでもよくわかる心電図」

—主催：(社)北海道臨床工学技士会—

謹啓

皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。(社)北海道臨床工学技士会では、生涯教育整備事業の一環といたしまして、「心電図セミナー初級編」を下記の要領にて開催する運びとなりました。

今回は全国各地の心電図セミナーでユーモアのある講義をされておられる名古屋掖済会病院心臓外科部長、平手裕市先生にお願い致しております。

医療に携わる皆様が、心電図の知識を盤石なものとするよい機会と考えております。是非、この機会に臨床工学技士のみならず看護師、医療関係者など、お気軽に皆様方の参加を心よりお待ち申し上げます。

謹白

開催日：平成19年1月28日(日) 9:30～17:00(受付9:00～)

会場：札幌コンベンションセンター 小ホール

札幌市白石区東札幌6条1丁目 TEL.011-817-1010

内容：「誰にでもよくわかる心電図」

講師：名古屋掖済会病院 心臓外科部長 平手裕市 先生

参加費：一般 ¥6,000

道臨工会員 ¥4,000

*テキスト・お弁当を含みます。

*参加費は当日会場でお支払い下さい。

*但し、道臨工会員で本年度の会費未納の方は一般扱いとなりますのでご注意ください。

申込方法：FAXで申込の方は申し込み用紙を下記事務局にFAX送信をお願いします。

インターネットで申し込みの方は(社)北海道臨床工学技士会のホームページから申し込み下さい(<http://hcea.umin.ac.jp>)

*事務局で参加受付完了後、受講票を郵送いたします。

定員：事前申込み 170名(定員)

受付期間：平成18年12月1日(金)～平成19年1月10日(水)まで

*定員になり次第締め切らせていただきます。参加人数が30名に満たない場合は中止致します。改めてご連絡致します

対象：臨床工学技士・看護師・各医療関係者の初任者

お問い合わせ先：

〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目

札幌社会保険総合病院 ME部 真下 泰

TEL 011-893-3000

FAX 011-893-9364

第18回人工呼吸セミナーのご案内

下記に示すとおり北海道呼吸管理研究会の人工呼吸セミナーが開催されます。

このセミナーの受講者は3学会合同呼吸療法認定士の認定単位20点/日が取得できます。

【期日】平成19年2月17日(土)、18日(日)

【会場】札幌医科大学講堂

札幌市中央区南1条西16丁目

【問い合わせ】

申込用紙や案内等は、人工呼吸器セミナー事務局に郵便もしくはFaxでお問い合わせ下さい。

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
札幌医科大学医学部麻酔科
人工呼吸セミナー事務局
FAX 011-631-9683

プログラム

第一日目(2月17日・土曜日)

時刻	講堂
9:00~9:10	開会挨拶(代表世話人:並木昭義)
司会	札幌厚生病院麻酔科 大久保和章
9:10~9:40	室蘭市立病院麻酔科 五十嵐元彦
	やさしい呼吸生理と呼吸不全の理解
9:40~10:10	北見赤十字病院麻酔科 荒川穰二
	人工呼吸の適応と換気モード
コーヒープレイク(10:10~10:30)	
司会	北海道小児総合保険センター麻酔科 豊島由希
10:30~11:00	旭川医科大学集中治療部 野崎浩司
	人工呼吸のモニターリング・トラブル対策
11:00~11:30	旭川医科大学手術部 宗万孝次
	人工呼吸器の保守・点検
昼食(11:30~12:40)	
司会	帯広厚生病院救命救急センター 山本修司
12:40~13:10	富山大学医学部薬理学講座 松田直之
	人工呼吸管理中の気道管理(鎮静・感染)

13:10~13:40

手稲溪仁会病院麻酔・集中治療科 横山 健

人工呼吸からの離脱

コーヒープレイク(13:40~14:00)

司会 日鋼記念病院麻酔科 黒田浩光

14:00~14:30

旭川赤十字病院麻酔科 住田臣造

急性呼吸不全の病態と管理

14:30~15:00

小児総合保険センター麻酔科 豊島由希

新生児・小児の人工呼吸管理

コーヒープレイク(15:00~15:20)

司会 市立札幌病院胸部外科病棟 五十嵐美恵子

15:20~15:50

市立札幌病院救命救急センター 三上剛人

人工呼吸管理の看護(成人)

15:50~16:10

北海道小児総合保険センター 稲田早苗

人工呼吸管理の看護(小児)

16:30~18:30 第24回北海道呼吸管理研究会

テーマ

“重症呼吸不全の診断・治療をどうする?”

パネルディスカッション並びに特別講演を予定しております

第二日目(2月18日・日曜日)

時刻	講堂
司会	札幌医大第3内科 藤井 偉
9:00~9:30	南1条病院呼吸器科 田垣 茂
	慢性呼吸不全の病態と管理
9:30~10:00	国立病院機構八雲病院 石川悠加
	在宅人工呼吸管理
コーヒープレイク(10:00~10:20)	
司会	国立病院機構八雲病院理学療法科 三浦利彦
10:20~10:50	札幌医科大学保健医療学部理学療法科 石川 朗
	呼吸理学療法の理論と実践
10:50~11:10	市立函館病院理学療法科 山下康次
	急性呼吸不全の呼吸理学療法
11:10~13:00	石川 朗・山下康次・ほか
	呼吸理学療法実習

第17回(社)北海道臨床工学技士会学術大会終了



第17回学術大会参加者数
 会員 153名
 賛助会員 39名
 学生 131名
 非会員 25名
総出席者数 348名

去る平成18年12月3日(日)、札幌コンベンションセンターにおきまして、第17回(社)北海道臨床工学技士会学術大会が開催されました。発表演題数は過去最多であった昨年をさらに上回り56演題となりました。特別講演におきましては、「医療安全における医療機器修理業者の役割」と題しまして、(株)ムトウテクノス代表取締役社長である白崎雄治先生に、さらにランチョンセミナーでは「移植医療の現状—臨床工学技士の役割—」ということで北海道大学臓器移植医療部助教授の嶋村剛先生に、「透析低血圧から考える血圧管理」と題しまして大阪府立急性期・総合医療センター 腎臓・高血圧内科副部長の勝二達也先生に貴重な講演をしていただきました。諸先生方にはこの場をお借りして篤く御礼申し上げます。また今回、休日にもかかわらず機器展示ということでご協力頂いた10社、及びドリンクコーナーに協賛頂きました麒麟麦酒株式会社の方々にも心より御礼申し上げます。

なお今回の学術大会で発表された方は、原稿を会誌17号に掲載いたしますので、この後の投稿規定をよく読み、発表原稿を平成19年1月15日(月)までに提出してください。

今大会の内容は以下の通りです。

- 特別講演 (共催:(株)ムトウテクノス) 司会 JA 北海道厚生連札幌厚生病院 室橋 高男 先生
 『医療安全における医療機器修理業者の役割』
 (株)ムトウテクノス 代表取締役社長 白崎 雄治 先生
- ランチョンセミナーI (共催:中外製薬株式会社) 司会 札幌社会保険総合病院 真下 泰 先生
 『移植医療の現状—臨床工学技士の役割—』
 北海道大学臓器移植医療部 助教授 嶋村 剛 先生
- ランチョンセミナーII (共催:鳥居薬品株式会社) 司会 特定医療法人北楡会札幌北楡病院 土濃塚 広樹 先生
 『透析低血圧から考える血圧管理』
 大阪府立急性期・総合医療センター 腎臓・高血圧内科 副部長 勝二 達也 先生

■一般演題 血液浄化部門Ⅰ

(座長 大澤 貞利 : 釧路泌尿器科クリニック)

- O-01 動脈圧モニタリングからのシャント再循環率測定の可能性について
釧路泌尿器科クリニック 伊藤 正峰
- O-02 動脈圧による血液流量の推定
- O-03 東レ社製透析患者モニターTR-3000[®]に搭載された血液粘度変化率測定機能の臨床評価
特定医療法人 北楡会 札幌北楡病院 臨床工学技術部 安藤 誠
旭川赤十字病院 救急部 臨床工学課 脇田 邦彦
- O-04 東レ社製単身用血液濾過透析装置TR-7000Sにてより安全なHDFを目指して
東日本電信電話株式会社 NTT東日本札幌病院 臨床工学技士室 高橋 秀一
- O-05 複式ポンプ劣化による透析液流量に与える影響について
市立稚内病院 臨床工学科 森久保 訓
- O-06 血管穿刺用携帯型超音波装置を用いたシャント管理の検討
JA北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床工学技術部門 竹内 勝訓
- O-07 メシル酸ナファモスタット使用時における微小血液凝固計の評価
旭川医科大学病院 手術部 天内 雅

■一般演題 循環器

(座長 高平 篤法 : 市立札幌病院)

- O-08 大動脈内バルーンパンピングにおけるショートバルーンの有用性の検討
北海道社会保険病院 ME部 原田 祐輔
- O-09 IABPにおけるバルーン径の違いによるIABP効果の比較検討 ~ショートバルーンの有用性の検討~
北海道社会保険病院 ME部 平田 和也
- O-10 当院におけるPCPS業務について~救急搬送シミュレーションを実施して~
JA北海道厚生連 遠軽厚生病院 臨床工学技術部門 渡部 貴之
- O-11 人工心肺中の血液濾過に重炭酸リンゲル液を使用した経験
医療法人 札幌中央病院 臨床工学科 森本 誠二
- O-12 体外循環シミュレーターを用いた人工心肺操作の技術習得
北海道大学 ME機器管理センター 岡本 花織
- O-13 非侵襲的血行動態測定 ICGモジュールを用いたモニタリングと循環管理
JA北海道厚生連 遠軽厚生病院 臨床工学技術部門 伊藤 善教
- O-14 CABGにおける赤外線観察カメラシステム(PDE)の使用経験
JA北海道厚生連 帯広厚生病院 柴田 貴幸

■一般演題 ME管理Ⅰ

(座長 足達 勇 : 砂川市立病院)

- O-15 輸液ポンプに関するアンケート調査
北海道工業大学 工学部 福祉生体工学科 戸松 弘彦
- O-16 輸液ポンプにおける薬液粘度と流量異常に関する基礎研究
北海道工業大学 工学部 福祉生体工学科 梶原 康平
- O-17 輸液ポンプの検証
JA北海道厚生連 札幌厚生病院 臨床工学技術部門 橋本 佳苗
- O-18 MRI用輸液ポンプの流量精度について
JA北海道厚生連 札幌厚生病院 臨床工学技術部門 橋本 佳苗
- O-19 閉鎖式輸液セットの流量誤差テストについて
新札幌循環器病院 臨床工学科 橋本 琢也
- O-20 輸液流量測定法の比較
JA北海道厚生連 札幌厚生病院 臨床工学技術部門 高橋 大樹

■一般演題 血液浄化Ⅱ

(座長 宮本 和之 : 恵み野病院)

- O-21 メシル酸ナファモスタット使用時における血液回路内析出物の検討
NTT東日本札幌病院 臨床工学室 棚田 智之
- O-22 CHDF装置より発生した静電気ノイズによる心電図波形誤認識の経験
NTT東日本札幌病院 臨床工学室 櫻田 克己
- O-23 透析室における避難訓練の経験
市立旭川病院 臨床器材科 臨床工学室 澤崎 史明
- O-24 当院における透析室の感染予防対策について
旭川赤十字病院 救急部 臨床工学課 細矢 泰孝
- O-25 透析室内におけるリスクマネージメントの取り組み
NTT東日本札幌病院 臨床工学室 杉本 親紀

■一般演題 ME管理Ⅱ

(座長 宗万 孝次 : 旭川医科大学病院)

- O-26 次世代型モニタリングシステムの導入について
特定医療法人 柏葉脳神経外科病院 臨床工学科 長谷川 清純
- O-27 ICタグを用いた医療機器の位置情報管理
北海道工業大学大学院 工学研究科 応用電子工学専攻 相川 武司
- O-28 医療用機器の電源変動許容量についての研究
北海道工業大学 工学部 福祉生体工学科 木村 達也
- O-29 電源コンセント等における接触抵抗の経時的変化に関する調査
北海道工業大学 工学部 福祉生体工学科 西谷 彰紘

■一般演題 ME 管理 III

(座長 棚田 智之 : NTT 東日本札幌病院)

- O-30 ME 機器管理システム「HOSMA」の使用経験
札幌社会保険総合病院 ME 部 斉藤 徳
- O-31 当院でのHOSMA導入によるME業務の変化
JA北海道厚生連 札幌厚生病院 石川 俊行
- O-32 医療機器管理データベースについて
仁友会 北彩都病院 臨床工学科 野尻 誠
- O-33 当院における医療機器の取り扱い向上の取り組み
特定医療法人 北楡会 札幌北楡病院 月安 啓一郎
- O-34 セーフティレポートから医療機器管理の検討
JA北海道厚生連 旭川厚生病院 臨床工学技術部門 成田 孝行
- O-35 北海道大学病院における ME 機器管理センターの現状(第一報)
北海道大学 ME 機器管理センター 加藤 伸彦
- O-36 ME機器安全管理におけるPSAモデル導入への展望~当院における保育器保守管理を例として~
JA北海道厚生連 旭川厚生病院 臨床工学技術部門 丸山 雅和

■一般演題 血液浄化 III

(座長 佐々木 雅敏 : NTT 東日本札幌病院)

- O-37 エバブレンEK16の臨床評価と性能評価
札幌社会保険総合病院 ME部 関根 かすみ
- O-38 ダイアライザーPES-Eβ シリーズと PES-D シリーズの性能評価
医療法人 札幌中央病院 臨床工学科 榎山 佳祐
- O-39 APS-S と TS-UL の長期使用における比較検討
NTT 東日本札幌病院 臨床工学室 石川 健
- O-40 透析用水の微生物モニタリングに関する検討
北海道工業大学 工学部 福祉生体工学科 塚本 和幸
- O-41 透析液清浄化への試み
(医)養生館 苫小牧日翔病院 臨床工学部 小野寺 卓也
- O-42 37mm クオリティモニターを用いた細菌検出法
NTT東日本札幌病院 臨床工学室 佐々木 雅敏

■一般演題 血液浄化 IV

(座長 脇田 邦彦 : 旭川赤十字病院)

- O-43 当院におけるアフエシス治療の現状
特定医療法人北楡会 開成病院 宮岸 勇樹
- O-44 血行再建困難な ASO に対し LDL-A 施行により、創治療の得られた1例
特定医療法人 北海道循環器病院 臨床工学科 栄前田 樹
- O-45 当院における心臓カテーテル検査・治療後の血液浄化療法の現況
手稲溪仁会病院 臨床工学部 猫宮 伸佳
- O-46 小児補助循環における CHF 併用の有用性
手稲溪仁会病院 臨床工学部 千葉 二三夫
- O-47 小児血液浄化における PE および CHDF 施行時の工夫
医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 臨床工学部 鈴木 学
- O-48 乳児に対する持続血液浄化法の経験
旭川医科大学病院 臨床工学室 宗万 孝次
- O-49 術前血漿交換による減黄が有効であった小児生体肝移植の1症例
北海道大学病院 ME機器管理センター 太田 稔

■一般演題 呼吸・手術室業務・その他

(座長 高橋 秀一 : NTT 東日本札幌病院)

- O-50 人工呼吸器の機種や加温加湿器設定の変更による加湿への影響について
JA 北海道厚生連 遠軽厚生病院 臨床工学技術部門 岡田 功
- O-51 当院における麻酔器保守点検業務の導入と経過
NTT東日本札幌病院 臨床工学室 桑田 大輔
- O-52 当院の内視鏡外科領域における臨床工学技士の役割 点検と修理から見た検討
医療法人 社団 カレス アライアンス 日鋼記念病院 臨床工学室 石田 稔
- O-53 電気メス対極板性能の比較
JA 北海道厚生連帯広厚生病院 臨床工学技術部門 岸部 淳一
- O-54 内視鏡スコープ自動洗浄消毒器の比較検討
北海道大学 ME 機器管理センター 竹内 千尋
- O-55 照度計を用いた光源ランプ点検の試み
北海道大学 ME 機器管理センター 岩崎 毅
- O-56 ICLS インストラクターを経験して
旭川赤十字病院 救急部 臨床工学課 太田 真也

機器展示参加企業

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. (株)ムトウテクノス | 6. 小林製薬(株) |
| 2. ガンプロ(株) | 7. 東レ・メディカル(株) |
| 3. 旭化成メディカル(株) | 8. メディキット(株) |
| 4. ニプロ(株) | 9. 扶桑薬品工業(株) |
| 5. クラレメディカル(株)・川澄化学工業(株)共催 | 10. テルモ(株) |
- 順不同

ドリンクコーナー

1. 麒麟麦酒株式会社

2006年度北海道臨床工学技士会学術大会にて発表された方へ

発表ご苦労様でした。発表内容は「北海道臨床工学技士会誌」へ掲載いたします。まだ原稿を提出されていない方は下記の「投稿・執筆規定」に基づいて、発表原稿を平成19年1月15日(月)必着で提出して下さい。提出が遅くなると会誌発行が遅くなります。皆様のご協力をお願いいたします。

提出先 〒070-0029 旭川市金星町1丁目1番65号
市立旭川病院 臨床器材課 臨床工学室 窪田 将司 宛
E-mail の場合は s_kubota@city.asahikawa.hokkaido.jp まで

「(社)北海道臨床工学技士会」 投稿・執筆規定

1. 北海道臨床工学技士会会誌では、研究論文、研究速報、症例報告など、出来るだけ他誌に未発表の原稿を掲載します。
2. 投稿は北海道臨床工学技士会会員とします。
3. 原稿提出の基本
 - 1) 原稿の大きさはA4判(縦使用)横組み、パソコンにて、1行40字×40行(1600字)にしてください。
 - 2) 図表はA4用紙に図表だけをプリントアウトした物を提出してください。
 - 3) 原稿枚数は規定しませんが、図表の合計は10点以内を目安にしてください。
 - 4) 図表を含めた提出原稿は、原本の他にコピーを添付してください。
 - 5) 作成した原稿は、プリントアウトしたもの1部と3.5inchのフロッピー(Windowsのフォーマットでワード文かテキストファイルで保存)を添付してください。なお、提出して頂いたメディアは返却致しません。
4. 投稿原稿の採否は、編集会議で討議し決定します。また、編集規定に従い、原稿の加筆、訂正、削除などをお願いする場合があります。
5. 原稿執筆の順序
 - 1) 見だし番号は以下の様にしてください。
 1. _____見だし
 - 1) . _____小見だし
 - (1)
 - 2) 研究論文、研究速報および症例報告の記載は以下の様にしてください。
 1. 緒言 (はじめに、まえがき)
 2. 研究方法 (対象、症例、方法)
 3. 研究結果 (結果)
 4. 考察
 5. 結論 (結語、まとめ、おわりに)
 6. 参考文献の記載方法

本文中の参考文献番号は右肩付文字で下記要領で記載してください。なお、共著の場合は、その氏名を3人とし、3名以外の扱いは、「3人目の氏名,ほか:」と記載してください。

 - 1) 参考文献の書き方
 - (1) 雑誌の場合
 - ・ 著者名,共著者名,共著者名,ほか: 論文題名, 雑誌名巻(号); 初頁-終頁, 発行年.
 - (2) 単行本の場合
 - ・ 著者名: 書名. 版, 出版地. 出版社. 発行年. 初頁-終頁
 7. 図表の規定(写真は図として扱う)
 - 1) 図表に使用する文字は明朝体を使用して下さい。
 - 2) 提出する図表は、白黒で光沢鮮明な手札以上の写真、または同等以上の解像度を有したものにしてください。
 - 3) 表題は、図は図の下に、表は表の上に記載してください。

医療安全セミナーのお知らせ

輸液・シリンジポンプに関する安全セミナーが開催されます。日常使用頻度の高い機器であるが故に使用上のトラブルも多く、今後のリスクマネージメントに役立てるためにも皆様多数の参加をお願い致します。申込方法など詳細は(社)北海道臨床工学技士会のホームページをご覧ください。

開催日：平成19年2月18日(日)10:00～
会場：札幌コンベンションセンター
札幌市白石区東札幌6条1丁目
TEL 011-817-1010

体外循環セミナーのお知らせ

体外循環セミナーが開催されます。申込方法など詳細は(社)北海道臨床工学技士会のホームページをご覧ください。

開催日：平成19年3月18日(日)
会場：札幌コンベンションセンター
札幌市白石区東札幌6条1丁目
TEL 011-817-1010

◆RM ニュース◆

<心臓手術で4歳児重体>

高知市の病院で9月、心臓手術を受けた男児(4)が脳梗塞(こうそく)で意識不明の重体になったことが20日、分かった。

手術の際に装着した人工心肺の管が頸(けい)動脈に誤って入ったとみられる。病院が設置した医療事故対策委員会は「医師の過失ではない」との結論をまとめ、センターは「固定していた管が何らかの原因で動いた可能性がある」としているが、現在、外部の専門家に意見を求めている。

病院によると、男児は心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開く先天性心房中隔欠損症で、9月7日に手術を受けた。人工心肺を着けて心臓を止め穴を縫合。心臓からの血流を回復させる際に血圧が低下した。人工心肺の管が頸動脈に入り血液が左脳に集中的に流れたとみられるという。

(10月20日：共同通信社)

<装置作動を誤認し患者死亡>

富山市の病院は8日、呼吸補助装置にスイッチが入っていないことに看護師が気が付かなかったため患者が2004年7月に意識不明になり、今年3月に死亡していたことを明らかにした。

同病院は家族に謝罪し、事故直後に県や富山中央署に届け出たという。

同病院によると、患者は富山市の男性＝当時(59)＝で、睡眠中に呼吸が止まることのある病気のため呼吸補助装置を使用していた。04年7月28日に新型の呼吸補助装置の使用を訓練するため1泊の予定で入院。看護師立ち会いの下で装着して寝る予定だったが、看護師が離れている間に自分で装着し就寝。

看護師は巡回の際、電源ランプがついていたことなどから装置が作動していると誤認し、翌日未明に患者が意識不明になるまで気が付かなかったという。(11月9日：共同通信社)

<ALS男性患者、呼吸困難で死亡>

長野県松本市の病院で、人工呼吸器をつけていた50歳代の男性入院患者が今月7日、呼吸困難になり死亡していたことが分かり、松本署は10日までに、任意で書類の提出を受けるとともに関係者から事情を聴くなどして、当時の状況や詳しい死因を調べている。

同署などによると、7日朝、男性の病室を訪れた女性ヘルパーが人工呼吸器とマスクをつなぐチューブが外れているのを発見し、看護師に伝えた。主治医らが心臓マッサージなどをしたが、男性は約2時間後に死亡した。

男性は運動神経が侵され筋肉が委縮していく筋委縮性側索硬化症(ALS)を発症しており、自分で体を動かすことができず、寝たきりだった。自力でチューブを外せなかったという。病院によると、早朝の見回りでは異常はなく、不審者の出入りもなかったという。同病院企画課長は「病院としても調査をし、原因が分かり次第方策を立てたい」と話している。

(11月11日：共同通信社)

会誌表紙デザイン募集

次回発行予定の(社)北海道臨床工学技士会の会誌 17 号の表紙デザインを会員の皆様から募集中です。採用者には QUO カード¥5,000 分を差し上げます。どうぞお気軽に応募してください。

【応募要項】

- ・用紙サイズは A4、縦型としてください。
- ・施設名、氏名、E メール(省略可)を明記し、デザイン画をプリントアウトしたものを下記まで送付、または軽い画像ファイルに変換して添付していただければ E メールでも結構です。
- ・応募及び問い合わせ先

〒070-8530 旭川市曙1条1丁目

旭川赤十字病院 臨床工学課 奥山 幸典 宛

TEL. 0166-22-8111 (内線 3220)

E-mail okuyuki@potato2.hokkai.net

- ・応募締め切り 平成19年1月31日
- ・編集委員及び事務局にて選考を行い、採用者には後日連絡いたします。なおデザインに関しては若干の変更、修正を求める場合がございますのでご了承ください。

会費納入についてのお願い

今年度の会費を受け付けております。前年度未納の方は、大至急納入していただくようお願いいたします。また、今年度分の会費も早急に納入していただくようご協力お願いいたします。

◎振り込みの際には、用紙の通信欄に“何年度分の年会費”と記載をお願いいたします。

正会員 5,000円

賛助会員／賛助団体 10,000円

口座番号 郵便局 02760-8-4815

加入者名 北海道臨床工学技士会

◎問い合わせ先

(社)北海道臨床工学技士会 財務担当理事

〒064-0809 札幌市中央区南9条西10丁目

医療法人札幌中央病院 臨床工学科 山本浩幸

TEL 011-513-0111

北海道臨床工学技士会ニュース

広報担当 仁友会 北彩都病院 臨床工学科 石川幸広

旭川赤十字病院 臨床工学課 脇田邦彦

編集委員 旭川医科大学附属病院 臨床工学室 宗万孝次

旭川赤十字病院 臨床工学課 奥山幸典

市立旭川病院 臨床工学室 窪田将司

印刷

岡本印刷株式会社

札幌市北区新川西2条1丁目

3番21号

011-766-2551